

災害医療 ACT 研究所「災害医療コーディネーター研修」に参加しました。(2013/2/11, 2013/3/20-3/21)

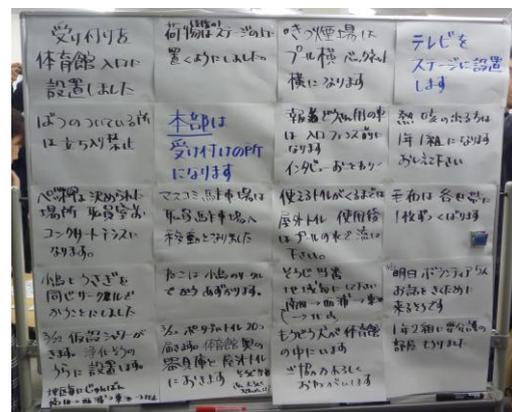
場所：石巻赤十字病院（石巻市）
 テーマ：災害医療コーディネーター研修 素振り編、試合編

2013年2月11日と3月20, 21日の2回に分けて、石巻赤十字病院で開催された NPO 法人災害医療 ACT 研究所「災害医療コーディネーター研修」に参加しました。災害医療 ACT 研究所とは、東日本大震災の際、石巻圏で数多くの医療救護チームを束ね医療支援活動を一元的に行った「石巻圏合同救護チーム」の運営を支えた、日本の災害医療のスペシャリスト達からなる研究会（人的ネットワーク）です。そして災害医療コーディネーターとは、大災害発災時、被災地の医療活動を再構築・支援していくために、保健・医療・福祉のニーズと被災地に寄せられる多くの人的物的資源の調整を行うスペシャリストのことで、混乱の中でチームビルディングを行い、通信基盤を確保し、情報の収集整理を行い、調整すべき人（組織）と人（組織）を繋ぐ役割です。当研究室では各県の災害医療コーディネーター整備についての全県アンケートを行い（回収率 100%）、既に39都道府県において同職が既に設置もしくは設置予定となっていることが分かりました。

今回の研修では、東日本大震災を模した大災害が九州地方で発生したとの仮定で、より実践的な机上シミュレーション研修を行いました。リアリティ溢れるシナリオが組まれており、自分達が県や地域の災害医療コーディネーターとなった際、どれだけ混乱した状況となるのか、身をもって体験することができました。また同日は、自分が被災者となった立場で、避難所運営を行う「HUG（避難所運営ゲーム）」という RPG も行いました。発災初期の段階で避難所に殺到する人々や出来事にどう対応していくのか、医療とはまた違った RPG でしたが、避難所運営の難しさ、さまざまな工夫が必要であることを痛感しました。この RPG は静岡県危機管理局が開発し、避難所運営を皆で考える一つのアプローチとして広く県民に浸透しているとのことでした。



避難所運営ゲーム風景



仮想避難所に張り出されたメッセージ
 佐々木宏之、江川新一（災害医学研究部門）